

29年産水田フル活用利用状況（第2回中間取纏め）結果

～飼料用米・WCS 生産は増加傾向に

5月26日、農水省は4月末現在の各都道府県での水田フル活用の達成見込みを公表した。平成30年を区切りとして国は生産調整の廃止を掲げ、ここ数年に於いて主食用米の適正流通量の改善と共に飼料用米等の転作を奨励・推進してきた。国が主導した形は区切りを迎えるが、30年産以降も都道府県、市町村が参画した農業再生協議会は存続する。地域の水田でどの作物を作付推進するのかという水田フル活用ビジョンは引き続き策定する。各産地における生産者は、自ら農産物の販売実績等も分析し、どのような作物をどれだけ生産するか、誰にどのように販売したらよいのかという戦略に基づき、需要に応じた生産を継続推進する計画する必要に迫られている。

さて、平成30年の生産調整の廃止を踏まえ、飼料用米、WCS、麦、大豆の作付けに変化が見られるようだ。飼料用米については全国の内66%と半数以上の県が昨年よりも作付増加が見込まれている。また、全国の内11%は取組が昨年と同等を見込んでおり、飼料用米推進が定着しつつあるように伺える。一方で、昨年より減少傾向が見込まれる県としては北海道、青森、栃木、群馬、長野、鳥取、島根、徳島、香川となっているが、これらの県では長野を除いた各道県は主食用の生産数量は達成ないしは深堀数量も達成とされており、一般用米の作付には大きく響かないことが予想できる。飼料用米生産において、群馬県が昨年よりも減少する見込みとなっているが、これは業務用米で価格上昇率が高かったあさひの夢といった主食用米への生産に逆戻りするというのではなく、大豆や麦の作付が増加傾向にあるとされており、生産者がどちらの作付の方が有利なのか判断している結果のように見受けられる。また、麦や大豆が増える傾向のある県では水田から乾田化を実施、畑作に移行しつつある地域があるようだ。一方で、主食用の生産数量目標の達成が見込めない県は第1回目の中間的取組状況結果と同じく現在のところ福島・茨城・埼玉・千葉・神奈川・新潟・長野・静岡・愛知・奈良・高知となっている。

生産数量目標達成が見込めないと報告している上述した各県の特徴として、新潟県を除く自身の県で生産されたコメは余らずに地元で消費されてしまうどころか、コメの輸入県であることや首都圏に近く生産者が直接販売先を確保している等々で生産数量の目標達成には至らないといったことが未達要因として考えられるのではないのだろうか。全国ベースでは今年も生産調整は達成できる見通となっているが、米穀年度末である6月末在庫と作況指数がどうなるのか、また、30年以降の各都道府県の動向が気になるところだ。

都道府県数	増加傾向	減少傾向	維持傾向
飼料用米	31	9	5
WCS	23	5	15
麦	15	12	19
大豆	19	12	14

東京（麦の作付実績は含む）・沖縄は除く

生産数量目標達成について

	深堀達成見込	生産数量 目標達成見込	達成見込めず
都道府県数	33	3	11



博多に来たなら踊らにゃ損

徳島県の阿波踊りを連想するかたも多いと思うが、「どんたく」の通称で知られる福岡市の祭りで、盛り上がりが高潮になる総踊りの際の掛け声である。正式名称は「福岡市民の祭り博多どんたく港まつり」で、今年で56回を迎える伝統のある祭りだ。祭りの最後には恒例である「祝いめでた」を歌い、「博多手一本」で締めくくる。毎年ゴールデンウィークの5月3日・4日に開催され、博多祇園山笠に次いで同市で開催される祭事としては国内最大級の動員数を誇る祭りだ。残念ながら今年は落雷を伴う急速な天候悪化により初日のパレードは中止となったが、祭りの動員数は予想を上回る約220万人となり、来場者はパレードの他に市内30カ所以上の演舞場で踊りやステージイベントを楽しんだ。

祭りの起源は室町時代の年賀行事である「博多松囃子（はかたまつばやし）」とされ、明治時代に一時禁止されていたが復活させる際にオランダ語で休日を意味する「ゾントーク」から名付けられたとされている。博多松囃子は選択無形民俗文化材に選択されており、福神流、恵比寿流、大黒流、稚児東流、稚児西流が「博多松囃子振興会」を組織し文化の保存に努め、博多どんたく港まつりと同日に祭りを開催している。この博多松囃子に各町人が趣向を凝らした出で立ちや出し物で続いたのを「通りもん」と呼び、博多松囃子を母体に独自に発展したものが昭和37年には福岡市民の祭りとして位置づけられ「博多どんたく港まつり」がスタートしたとされている。両日とも13時から車両通行止めにした明治通りを「どんたく広場」とし、どんたくパレードが始まる。博多松囃子を先頭に福岡市長や県知事、福岡県警音楽隊、西鉄（西日本鉄道）によるトラックに電飾装飾を施した花自動車隊、どんたく隊などが19時ごろまで博多の街を賑わす。4日の最終日には18時頃からどんたく広場にて飛び入り参加可能なフィナーレとなる「総踊り」が行われる。福岡市で開催される祭事のスケジュールなど詳細は福岡市民のまつり振興会ホームページでご確認ください。



博多松囃子は選択無形民俗文化材に選択されており、福神流、恵比寿流、大黒流、稚児東流、稚児西流が「博多松囃子振興会」を組織し文化の保存に努め、博多どんたく港まつりと同日に祭りを開催している。この博多松囃子に各町人が趣向を凝らした出で立ちや出し物で続いたのを「通りもん」と呼び、博多松囃子を母体に独自に発展したものが昭和37年には福岡市民の祭りとして位置づけられ「博多どんたく港まつり」がスタートしたとされている。両日とも13時から車両通行止めにした明治通りを「どんたく広場」とし、どんたくパレードが始まる。博多松囃子を先頭に福岡市長や県知事、福岡県警音楽隊、西鉄（西日本鉄道）によるトラックに電飾装飾を施した花自動車隊、どんたく隊などが19時ごろまで博多の街を賑わす。4日の最終日には18時頃からどんたく広場にて飛び入り参加可能なフィナーレとなる「総踊り」が行われる。福岡市で開催される祭事のスケジュールなど詳細は福岡市民のまつり振興会ホームページでご確認ください。

★2016年日本の祭り動員数トップ10

順位	祭事名	開催場所	動員数(千人)
1	博多祇園山笠	福岡市博多区	3,000
2	青森ねぶた祭	青森市	2,760
3	さっぽろ雪まつり	札幌市中央区	2,609
4	仙台七夕まつり	仙台市青葉区	2,283
5	日本ど真ん中祭り	名古屋市中区	2,202
6	YOSAKOIソーラン祭り	札幌市中央区	2,054
7	三社祭	東京都台東区	2,010
8	博多どんたく港まつり	福岡市博多区	2,000
9	浜松まつり	浜松市中区	1,738
10	弘前ねぶたまつり	弘前市	1,680

※上記動員数は、各自治体のHPや月間レジャー産業資料、警察の発表の情報より

梅雨に入りましたね。昨年の関東地方はカラ梅雨で水不足となりましたが、今年は平年並みに降るでしょうか。作物の成長には欠かせない雨と太陽。異常気象にならずに穏やかな天候であることを願います。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>